

LuaL^AT_EX-ja ドキュメント記述用クラス

LuaT_EX-ja プロジェクト

2011/10/03

l^tj^lt^xdoc クラスは、l^tx^doc をテンプレートにして、日本語用の修正を加えています。

```
1 <{*class}
2 \DeclareOption*{\PassOptionsToClass{\CurrentOption}{ltxdoc}}
3 \ProcessOptions
4 \LoadClass{ltxdoc}
```

l^tx^doc の読み込み後に l^ua^te^xja を読み込みます。

```
5 \RequirePackage{luatexja}
```

`\normalsize` l^tx^doc からロードされる `article` クラスでの行間などの設定値で、日本語の文章を組版すると、行間が狭いように思われるので、多少広くするように再設定します。
`\small` また、段落先頭での字下げ量を全角一文字分とします。
`\parindent`

```
6 \renewcommand{\normalsize}{%
7   \setfontsize\normalsize\@xpt{15}%
8   \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
9   \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
10  \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
11  \belowdisplayskip \abovedisplayskip
12  \let\@listi\@listI}
13 \renewcommand{\small}{%
14  \setfontsize\small\@ixpt{11}%
15  \abovedisplayskip 8.5\p@ \@plus3\p@ \@minus4\p@
16  \abovedisplayshortskip \z@ \@plus2\p@
17  \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
18  \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
19             \topsep 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
20             \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
21             \itemsep \parsep}%
22  \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
23 \normalsize
24 \setlength\parindent{1\zw}
```

`\file` `\file` マクロは、ファイル名を示すのに用います。

```
25 \providecommand*{\file}[1]{\texttt{#1}}
```

`\pstyle` `\pstyle` マクロは、ページスタイル名を示すのに用います。
26 `\providecommand*\pstyle}[1]{\textsl{#1}}`

`\Lcount` `\Lcount` マクロは、カウンタ名を示すのに用います。
27 `\providecommand*\Lcount}[1]{\textsl{\small#1}}`

`\Lopt` `\Lopt` マクロは、クラスオプションやパッケージオプションを示すのに用います。
28 `\providecommand*\Lopt}[1]{\textsf{#1}}`

`\dst` `\dst` マクロは、“DOCSTRIP” を出力する。
29 `\providecommand\dst{\normalfont\scshape docstrip}}`

`\NFSS` `\NFSS` マクロは、“NFSS” を出力します。
30 `\providecommand\NFSS{\textsf{NFSS}}`

`\c@clinen` `\mlineplus` マクロは、その時点でのマクロコードの行番号に、引数に指定された
`\mlineplus` 行数だけを加えた数値を出力します。たとえば `\mlineplus{3}` とすれば、直前のマ
クロコードの行番号 (30) に 3 を加えた数、“33” が出力されます。
31 `\newcounter{@clinen}`
32 `\def\mlineplus#1{\setcounter{@clinen}{\arabic{CodelineNo}}%`
33 `\addtocounter{@clinen}{#1}\arabic{@clinen}}`

`tsample` `tsample` 環境は、環境内に指定された内容を罫線で囲って出力をします。第一引数
は、出力するボックスの高さです。このマクロ内では縦組になることに注意してく
ださい。
34 `\def\tsample#1{%`
35 `\hbox to\linewidth\bgroup\vrule width.1pt\hss`
36 `\vbox\bgroup\hrule height.1pt`
37 `\vskip.5\baselineskip`
38 `\vbox to\linewidth\bgroup\tate\hsize=#1\relax\vss}`
39 `\def\endtsample{%`
40 `\vss\egroup`
41 `\vskip.5\baselineskip`
42 `\hrule height.1pt\egroup`
43 `\hss\vrule width.1pt\egroup}`

`alxspmode` コマンド名の `\` と 16 進数を示すための `"` の前にもスペースが入るよう、これらの
`alxspmode` の値を変更します。
44 `\ltjsetparameter{alxspmode={"5C,3}} %% \`
45 `\ltjsetparameter{alxspmode={"22,3}} %% "`
46 `\</class>`

`mod@math@codes` doc パッケージでは、ドライバ指定の表示の部分における `|` の `\mathcode` は "226A" になっており、これにより `|` が小文字の `j` で表示されてしまう状況になっています。改善するため、"207C" に変更します。

```
47 \def\mod@math@codes{\mathcode`|= "207C \mathcode`&="2026
48 \mathcode`\-="702D \mathcode`+="702B
49 \mathcode`:= "703A \mathcode`=="703D }
```